

平成16年6月9日 於 駒ヶ根市

青年海外協力隊 平成16年度1次隊 派遣前研修
「日本の教育経験・協力経験の活用と隊員が直面する課題」

eアーカイブによる 日本の教育協力経験共有化の意義

小原 豊 (Yutaka OHARA)
CRICED, University of Tsukuba

はじめに

- eアーカイブとは何か? (what)
- なぜ eアーカイブなのか (why)
- 誰が eアーカイブを用いるのか (who)
- いつ, どこで eアーカイブを用いるのか (when) (where)
- どうやって eアーカイブを用いるのか (how)
- eアーカイブのもたらす未来の国際教育協力

そもそも アーカイブとは何か?

アーカイブ (archive) とは

- ・文書館 (公的・歴史的な文書の保管所), (文書館の) 保管文書.
- ・保管・転送などのため, 複数のファイルを (通例 圧縮して) 一つにまとめたもの。また, 一般に保管用のファイルを格納する場所・媒体)

[研究社 リーダーズ英和辞典第2版]

eアーカイブとは何か?

eアーカイブ = 電子アーカイブ

インターネット上で以下のデータベースの登録と検索, 閲覧等を可能とし, 拠点システムの情報発信機能を実現するもの
拠点システム事業の成果物
拠点システム事業に活用された各種資料, 文献等
その他国際協力資料の所在情報

即ち, 拠点システムの各事業において得られた成果を集積し, webサイト等を通じて関係者, 利用者が閲覧できるもの。
(拠点システムのハブ機能, 情報発信)

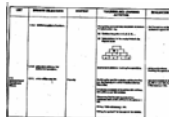
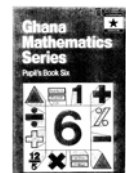
eアーカイブの特色

- 利用者にとって一元的なアクセスの実現
- 検索可能な形式での公開
- 文書媒体に限定されない多様なファイル形式

所在情報はもちろん, 文章や映像などデータ
そのものを確保することができる

格納される情報の一例

(拠点システム事業に活用された各種資料, 文献等)



格納される情報の例 (拠点システム事業の成果物)



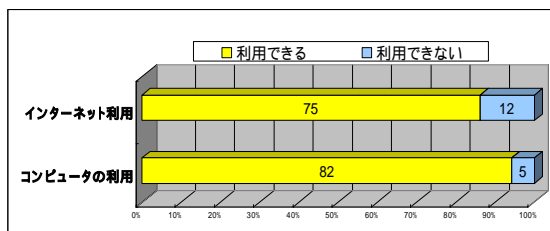
なぜ e アーカイブなのか

拠点システムの基本的な考え方

- あらかじめ我が国の協力経験やノウハウを体系化して整理しておくことにより、途上国のニーズに応じ教育援助関係者がこれらを自由に参照、活用することを可能とする。
- 協力の質的、量的、さらには迅速性の観点からも、開発途上国の要請に対して、的確かつ体系的に対応できるようにする。

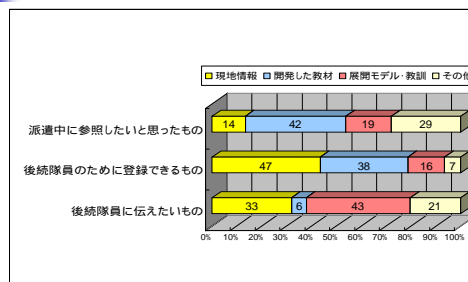
国際教育協力に関する情報を共有する具体的手段、
拠点システム事業の成果を広く発信する場としての e アーカイブ

派遣隊員の情報利用環境



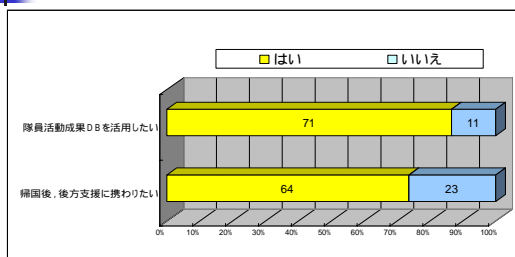
参照 URL <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>

派遣隊員の情報共有への意識



参照 URL <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>

派遣隊員の情報活用, 後方支援への意欲



参照 URL <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>

誰が e アーカイブを用いるのか

アーカイブの利用者

- 内外の援助機関、途上国政府
- 青年海外協力隊員、調整員、専門家 etc
- 国際教育協力に関心をもつ人々 …… 多岐にわたる大人だけでなく、子ども(児童・生徒)もアクセスすることが考えられる

アーカイブへの情報登録者

- 拠点システムの事業者
(情報に関する社会的責任の問題 etc)

いつ、どこで e アーカイブを用いるのか

いつでも！

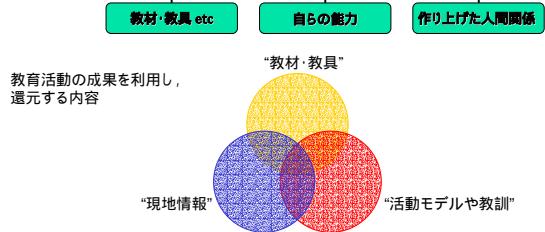
- 特に派遣隊員の場合
 - 派遣前 ~ 任国の情報などを確保
 - 派遣中 ~ 現地で即使える教材などの確保
 - 帰国後 ~ 教育経験を活かす場として

どこでも！

- インターネットが使える環境ならどこでも
(ただしデータをダウンロードするにはそれなりの回線が必要)

派遣隊員が利用できるもの、還元できるもの

派遣現職隊員が
利用できるもの



派遣中の教育活動とその支援



どうやって e アーカイブを用いるのか

- 百聞は一見に如かず
実際に使ってみましょう。

<http://archive.criced.tsukuba.ac.jp/>
(現在 試験運用中)

おわりに e アーカイブがもたらす未来の国際教育協力

- インターフェイスの英語化による、諸外国との協調
現在、アーカイブのインターフェイスは日本語のみである。
その英語化を図ることで、教育協力に関わる外国人、海外の実践者も
アーカイブを活用できるようになり、外国語データ登録が実現される。
- アクセス解析システムの調査・設計による、適切な資料の拡充
どのようなデータが利用されているかを解析し、より必要とされる
データが格納されるように、データが質的に充実していく
- 遠隔情報共有・遠隔教育機能による国際理解教育の実現
データの国際教育協力への利用を促す情報共有・コミュニケーション
環境を設定することで、e アーカイブが学校での国際理解教育の充実を
含めた、社会貢献を進めていく